

## 施工の確実性を高めた「S-PS工法」、本管(鋼管)の非開削更新工法「D-PS工法」

ケイハイ導管工事業部  
島田英樹次長



不二公業山口一史取締役  
役ガス工事業部長



開発に当たっては、対象となる管種に応じた装置の改良、地質や地下水の有無等の施工条件の違いによる影響に対する試験を繰り返し行い、装置の完成度を高めました。今では、京葉ガス管内に

京葉ガスのグループ会社であるケイハイとパートナー企業である不二公業は、京葉ガスとともに非開削更新工法の開発と施工を進めてきました。非開削更新工法は、開削工法に比べ掘削土量の削減による環境負荷への低減、工期短縮等による工事費削減が図れる点で大きなメリットがある工法です。

### ガス導管用非開削更新工法 ラインアップ

- 本管用…D-PS工法 (100A・150A・200A)
- 支管用…トリックトレンチレス工法 (40A・50A)
- パイプスプリッター工法 (40A・50A)
- S-PS工法 (50A)
- [80A→75A、80A→100A…開発予定です。]

開削に当たっては、対象となる管種に応じた装置の改良、地質や地下水の有無等の施工条件の違いによる影響に対する試験を繰り返し行い、装置の完成度を高めました。今では、京葉ガス管内に

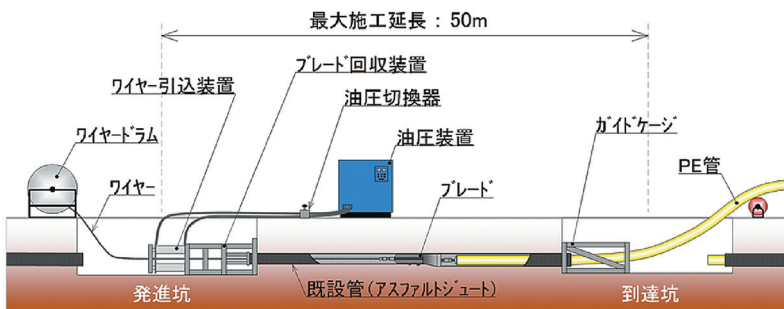
おける支管更新では、非開削更新工法がスタンダードな工法となっております。ケイハイと不二公業は、支管の非開削更新工法として「パイプスプリッター工法」、「トリックトレンチレス工法」を擁し、京葉ガス管内および他のガス事業者での更新工事において施工実績を積み上げてきました。

これまでは、ねじ継手の支管を対象とした非開削更新工法としてパイプスプリッター工法が運用されてきましたが、メカニカル継手や硬い継手等でも容易に切断ができ、施工の確実性を高めた「S-PS工法」を2019年に開発し運用しております。

また、本管(鋼管)の非開削更新工法として「D-PS工法」を開発し、約2400mの試験施工を行いました。本工法は、京葉ガスで本採用される予定です。

現在、支管の更新では、口径 径40A↓50A、50A↓50A、50A↓75Aの更新に対応しております。本管(鋼管)の更新では、100A、150A、200Aの同口径の更新に対応しております。今後は、支管更新のバリエーションを増やし、80A↓75A、80A↓100Aの対応ができるよう開発を進める予定です。

D-PS工法施工概要図



ガス事業者の皆さまにおかれましては、経年管の更新でお困りのこと、また、非開削更新工法にご興味がおありの場合は、お気軽にご連絡いただければと思います。非開削による新設管施工のラインアップもございますので、お問い合わせいただけます。私どもは、非開削更新工法の実績と技術を有し、顧客のご期待に応えることができます。ご負担しております。